11　　み言葉は難しい　　　　　　　　　　　文法　注意したい訳し方の助動詞①

読解　具体的心情をつかむ

予、㋐そのかみ、高松ののにといふこと侍りしとき、恋歌に、

きかぬる涙の川の瀬を早み①くづれにけりな人目つつみは

と詠めりしを、いまだの歌など詠みなれぬほどⓐにて、入道に見せ合はせ侍りしかば、　「②この歌大きなる難あり。帝・后の㋑隠れ給ふをば『崩ず』といふ。その文字をば『くづる』と読むなり。③いかでか院中にて詠まん歌にこの言葉をば詠むべき」と申し侍りしかば、あらぬ歌をだしてやみⓑにき。

その後、女院ほどなく隠れおはしましにき。④この歌出だしたらば、さとしとぞ沙汰せられ侍らまし。

* 語注

高松の女院の北面＝二条院の中宮御所の北側にある、武士などがするところ。

菊合＝参加者が左右に分かれてそれぞれが菊の花を出して優劣を競い、それに和歌を伴うの一種。

堰きかぬる涙の川の瀬を早み＝ふさぎ止めることができないでいる涙の川の浅瀬の流れがはやいので。

つつみ＝「堤」と「慎み」との掛詞。

晴の歌＝歌合など人前に出される歌。

勝命入道＝藤原親重。父親の友人。

【原文】

予、そのかみ、高松の女院の北面に菊合といふこと侍りしとき、恋歌に、

堰きかぬる涙の川の瀬を早みくづれにけりな人目つつみは

と詠めりしを、いまだ晴の歌など詠みなれぬほどにて、勝命入道に見せ合はせ侍りしかば、「この歌大きなる難あり。帝・后の隠れ給ふをば『崩ず』といふ。その文字をば『くづる』と読むなり。いかでか院中にて詠まん歌にこの言葉をば詠むべき」と申し侍りしかば、あらぬ歌を出だしてやみにき。

その後、女院ほどなく隠れおはしましにき。この歌出だしたらば、さとしとぞ沙汰せられ侍らまし。

問一　次の「内容わしづかみ」の空欄に本文中の語句を書き入れよ。

〔　　　　〕のために詠んだ〔　　　　〕を〔　　　　　　　　〕に見てもらったところ、「『〔　　　　　　〕』を用いている大きな〔　　　〕がある」と指摘された。違う歌を出したが、その後〔　　　　〕は亡くなってしまった。

問二　波線部㋐・㋑の意味を答えよ（㋑は終止形でよい）。〈４点×２〉

㋐〔　　　　　　　　　　〕　㋑〔　　　　　　　　　　〕

問三　二重線部ⓐ・ⓑの助動詞を文法的に説明せよ。〈３点×２〉

ⓐ〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

ⓑ〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問四　チェック問題　［注意したい訳し方の助動詞①］

　次の傍線部を現代語訳せよ。〈１点×３〉

１　女の盛りにならば、髪もいみじく長くなりなむ。（更級日記）

２　鬼はや一口に食ひてけり。　　　　　　　　　 （伊勢物語）

３　いとあやしきさまを人や見つらむ。　　　　　 （源氏物語）

１〔　　　　　　　　　　〕

２〔　　　　　　　　　　〕

３〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問五　傍線部①・③を現代語訳せよ。〈①＝４点、③＝６点〉

①〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

③〔

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問六　傍線部②とあるが、入道はどのようなことを欠点として指摘しているのか。二十五字以内で答えよ。〈10点〉

〔

〕

問七　　傍線部④について、

⑴　解釈として最も適当なものを選べ。〈８点〉

ア　勝命入道に見てもらったものの、詠み直す前の歌が広まってしまったので、女院の死の前兆だとされたのでしょうか。

イ　勝命入道に見てもらいながら、そのまま歌合に出したので、女院の死の前兆であったと噂されたのでしょう。

ウ　勝命入道に見てもらわずに、そのまま歌合に出していたならば、女院の死の前兆だと噂されたことでしょう。

エ　勝命入道に見てもらい、歌を詠み直していたならば、女院の死の前兆だと噂されることもなかったのでしょうか。

〔　　　〕

⑵　このように述べる｢予｣の心境の説明として最も適当なものを選べ。〈５点〉

ア　本来の歌の実力を披露できず残念に思っている。

イ　いわれのない批判をされずにすんだとしている。

ウ　自分の歌の才能が認められたことに満足している。

エ　女院が不幸に見舞われたのだという自責の念を感じている。

〔　　　〕

【解答】

問一　菊合／恋歌／勝命入道／くづる／難／女院

問二　㋐＝その当時　㋑＝亡くなる〈４点×２〉

問三　ⓐ＝断定の助動詞「なり」連用形

　　　ⓑ＝完了の助動詞「ぬ」連用形〈３点×２〉

問四　１＝きっと長くなるだろう。

　　　２＝食ってしまった。

　　　３＝人が見てしまっているだろうか。〈１点×３〉

問五　①＝くずれてしまったなあ〈４点〉

　　　③＝どうして院の御所で詠むような歌にこの言葉を詠んでよいことがあろうか、いやよくない。〈６点〉

問六　帝や后の死を連想させる言葉が使われていること。（23字）〈10点〉

問七　⑴　ウ〈８点〉

　　　⑵　イ〈５点〉

【現代語訳】

私（鴨長明）が、その当時、高松の女院の北面で菊合ということがございましたときに、恋の歌として、

ふさぎ止めることができないでいる（あの人恋しさに流す）涙の川の浅瀬の流れがはやいので、川の堤が崩れるように、とうとう他人につつみ隠すことができなくなってしまったことであるよ。

と詠んだのを、（予（私）は）まだ晴の歌などを詠みなれない頃で、勝命入道に見てもらいましたところ、「この歌には大きな難点がある。帝や后がお亡くなりになることを『崩ず』という。その文字（崩）を『くずる』と読むのだ。どうして院の御所（の歌合）で詠むような歌にこの言葉を詠んでよいことがあろうか、いやよくない」と（勝命入道が）申し上げましたので、（予（私）は）違う歌を出して終わってしまった。

その後、女院はほどなくしてお亡くなりになってしまった。この歌を出したならば、（女院の死の）前兆であったと噂されたでしょう。

【補充問題】（＊行数は本書に対応）

問１　「この言葉」（５行目）とあるが、具体的にはどのような言葉か。本文中の和歌から一語で抜き出して答えよ。

問２　「いかでか院中にて詠まん歌にこの言葉をば詠むべき」（５行目）の解釈として、最も適当なものを選べ。

ア　院の御所で詠まない歌なら、どんな言葉を詠み込んでも構わない。

イ　院の御所で歌を詠むのなら、詠み慣れた言葉を使った方がよい。

ウ　院の御所で詠む歌に、縁起の悪い言葉を詠み込んではならない。

エ　院の御所で歌を詠む時は、その場にふさわしい言葉を用いる必要がある。

問３　「あらぬ歌」（５行目）とはどのような歌のことをいうのか。最も適当なものを選べ。

ア　縁起の悪い言葉を用いていない歌。

イ　これまで詠んだことのない趣向の歌。

ウ　自分の思いとはまったく異なる歌。

エ　帝や后などに喜んでいただける歌。

問４　現代語訳せよ。

①「瀬を早み」（２行目）

②「出だしてやみにき」（６行目）

【補充問題解答】

問１　「くづれ」

問２　ウ

問３　ア

問４　①浅瀬の流れが早いので

②出して終わってしまった